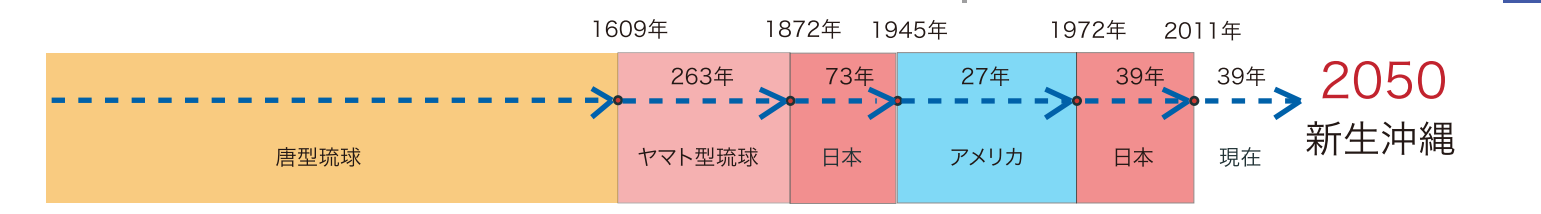


新しい沖繩の街づくりの提案

ー米軍キャンプキンザー跡地計画をモデルとして考えてみたー



島であることを再認識し、日本の基準ではない沖繩のローカルルールで成り立つ街

- 地域文化を尊重した【ローカルルール】で成り立つ街
 - ・影を創り出すための機能には、建築面積の制限をかけない。
 - ・半戸外的空間は、建築面積、容積には算入しない。
 - ・水平的思考の用途地域は規定しない。
- 立体的に混在する街
 - ・海への眺望を開くため、1階をピロティとし2,3階を店舗や事務所、公共施設、上層を住居とした立体的な用途を持つ街とする。
 - ・2,3階には人工地盤を設け、隣接建築物につなぎ結びつきのある街にする。(街の端から端まで、陸橋で移動可能)
 - ・一定の構造枠の中で、内部は自由な空間作りを可能にする。
- 災害に強く、自然と共存する街
 - ・緑の軸：街区に3本、緑の軸を設け、58号線からの海への眺望を確保しつつ、既存街区へ海からの涼風を取り入れ、ヒートアイランド現象の防止に寄与させる。
 - ・自給自足：1建築でエネルギー(太陽光・風力発電)、食の自給を目指す。(全ての屋上に菜園を設ける)
- 過去を未来に生かす街
 - ・既存の土地形状や道路を生かし活用する。
 - ・既存の建物を生かし活用する：倉庫郡を公共施設で再利用する。
 - ・既存の海岸線を生かす：臨港道路の海側に海岸線を再生し、緑地や公園とし、海への眺望を開く



アジア的な街～職住近接～

2,3階を商業系、ピロティ階をはさみ居住性を高め、上部を住居系とし職住近接しながら土地を立体的に活用する。

海上人工島

海上に人工島を設置、超高層建物を建設し、埋立てるより自然への負荷を小さくする。



一階ピロティ

全建物1階をピロティとし、市民開放空間として海への眺望を確保する。

下部商業系

建物2～4層目を商業系とし、このレベルでブリッジにより街区外周、他のビルとをつなぎ徒歩による移動を可能とする。